

はじめに

「評価」は学習者にはとても気になるものです。テストの点数や通知表が悪くて親に叱られるマンガは昔からの定番です。「評価」をもとに学習者のランクが決まり、将来の進路を左右するのではないかとも思われているようです。

「評価」には評価する人と評価される人がいます。評価する人も実は評価することによって評価されます。教室では常に誰かが誰かを評価しています。小さな評価の集まりが教室の授業を創りあげています。

「これさえ覚えれば100点」というテストによる評価は一見公正で平等に見えます。しかし、世の中は100点満点の筆記テストでは決まりません。多くは、演説、会議、論文、説得、企画書、感動を与える音楽やアート、演技、立ち居振る舞い……などの評価で決まっています。つまり一部ではなく全体的・総合的な表現が評価されます。教室ならば、プレゼンテーション、グループワーク、レポート、授業に参加する態度などがそれにあたるでしょう。

ルーブリック※1は複雑で多岐にわたる評価対象の全体像を細かく分け、段階的に評価するための道具です。形成的評価※2はルーブリックの1つ1つの要素に焦点を当て重点的にトレーニングし評価するものです。複雑で多岐にわたる全体像を細かく分け、ある部分に集中することで、すべきことが理解しやすくなり、成長が見えやすくなり総括的評価※3を高めることとなります。

教室では何度も評価したり、されたりしながら、評価のシステムを学び、体験することができます。最終的に、評価は個々の特性を知るため、未来の自分を創るため、自分自身を常に客観的・科学的に見つめるための道具だという理解に至ります。

この冊子では、複雑に見える評価の全体像が見える化しました。また、「うまくいかないケース」を8つ取り上げ、生徒と教師の協働によって**チェンジ!!**することで**グッドジョブ!!**になるような提案をしています。この冊子をお役立ていただき、評価を楽しく、深く、有意義に**チェンジ!!**してください。

もくじ

レポート評価と成長 パーソナルプロジェクト※4を例に……4

ケース1	意味不さん レポート評価意味ないよ	……6
ケース2	人ごとさん テーマと自分は無関係	……8
ケース3	おおまかさん 裏付け無しでは感想文	……10
ケース4	甘すぎさん 自己に甘すぎ成長できず	……12
ケース5	やみくもさん 規準定めず路頭に迷う	……14
ケース6	記録しないさん 証拠がなくてどうするの？	……16
ケース7	成果第一さん Outcome※5(成果物) だけに気を取られ	……18
ケース8	振り返らずさん したことだけを書いてもね	……20
	あとがき 言葉の説明	……22